

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 14 日現在

機関番号：32512

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2013～2015

課題番号：25770241

研究課題名(和文) 多元的貨幣流通形成過程の実証的研究

研究課題名(英文) A demonstrative research for the process to establish polyphyletic monetary circulations from the sixteenth to the seventeenth centuries Japan

研究代表者

川戸 貴史 (Kawato, Takashi)

千葉経済大学・経済学部・准教授

研究者番号：20456289

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,500,000円

研究成果の概要(和文)：16世紀から17世紀日本における貨幣流通秩序の構造および時間的な変容について、史料の蒐集と分析によって、具体的な実態を明らかにしました。

具体的には、当時の京都における公家や寺社の日記における貨幣の使用記事を蒐集し、貨幣を使用する傾向の分析を行いました。その結果、16世紀後半に目立つようになった高額商品の流通に応じて金や銀が貨幣として用いられるようになり、16世紀末期になると、京都では銀が主要な貨幣として使用されるようになったことを明らかにしました。また各地の貨幣使用に関する史料も分析し、17世紀前半の西日本の各地では、地域独自の貨幣流通秩序が存在していたことを明らかにしました。

研究成果の概要(英文)：In this research I proved the structure and transformation of monetary circulations from the sixteenth and seventeenth centuries Japan by collecting and analyzing historical articles about usages of currency.

Concretely, I collected articles written in diaries, documents and chronicles by court nobles and monks living around Kyoto, and I analyzed these ones. As a result, I proved several facts as follows: at the time people came to use gold and silver as currency frequently for payments of expensive goods such as Chinese ceramics in the latter half of the sixteenth century, and they were using silver mainly as currency in the end of the sixteenth century in Kyoto. I also analyzed articles about monetary usages in other regions in Japan. And then I proved that in a few regions in western Japan each orders of monetary circulations were autonomously structured and their each orders were distinct from ones of other regions in the former half of the seventeenth century.

研究分野：日本中世史

キーワード：日本史 中世史 中近世移行期 貨幣史 地域通貨 日本経済史 近世史 流通史

1. 研究開始当初の背景

15世紀後半から17世紀前半にかけての日本は中近世移行期と呼ばれ、政治・社会・経済それぞれにおいて大規模な変革期に該当しており、その構造の解明に向けて多くの研究が蓄積されてきた。そのうち社会経済分野においては、長らく土地制度(太閤検地・石高制)を主な対象として議論が進められてきた。一方で社会経済の根幹の一つを構成する貨幣流通に関しては、近年までほとんど注目されてこなかった。しかし1990年代後半になると、土地制度に関する議論が沈静化する一方で、当該期における貨幣流通の特殊性に注目が集まるようになった。

その特質は、主に次の2点に分類される。(1)中国から移入された渡来銭が中心を担った中世の貨幣経済から、日本独自に銭貨(寛永通宝)を発行した近世の貨幣経済へ転換したこと、(2)金・銀が貨幣として普及したこと、である。

(1)については、16世紀に「悪銭」が流通した混乱に対応するため、その克服が目的であったとされてきた。しかし実際には必ずしも粗悪銭のみが忌避の対象にはなっていないことから、「悪銭」=品質の劣る銭貨とは限らない。実際には、戦国大名領国を単位として形成した地域経済圏で生み出された「地域通貨」であったとした。ただし、17世紀の寛永通宝発行にかけての流通秩序については具体的様相が不明瞭なために分析は低調であり、その解明が大きな課題となっている。

(2)については、近年の研究によって、1560年代頃から金・銀が貨幣として使用されるようになりつつあったことが明らかにされた。その後京都では1580年代に銀よりもむしろ金が多く使用され、1590年代には銀が多く使用されるようになったことをかつて明らかにした。しかしそれ以後の時期について、金・銀・銭の流通状況は具体的には未解明なままとなっていた。

2. 研究の目的

本研究では、16世紀末から17世紀前半にかけての貨幣使用実態を示す史料の網羅的蒐集を行う。これまでは、当該期の公家などの日記(『兼見卿記』『舜旧記』『鹿苑日録』等)から関連史料を蒐集して分析を行ったが、ほかに未活字を含めた多くの史料があり、その調査と分析を果たしたい。また、当該期に行われた検地における基準高の確定作業は当時の貨幣流通秩序とも深く関わっていると考えられることから、各地における検地帳の調査と分析も行う。これらの作業によって、貨幣流通秩序の実態を明らかにする。

以上の作業によって、貨幣流通秩序の中近世移行過程について貨幣の使用実態を明らかとなり、歴史的に特異である大規模な社会変革時代における貨幣流通秩序について、その構造を解明することが可能となる。

3. 研究の方法

平成25年度は、16世紀末期~17世紀前半における貨幣の使用実態を明らかにするために関連記事の網羅的蒐集を行う。そのため、国内の公的研究機関が所蔵する当該期の史料調査を行うこととする。活字化された史料については、購入あるいは公的図書館等の利用によって調査を進め、事例収集に努める。

平成26年度は蒐集作業を継続して活字化された史料の調査を完了させるとともに、未活字史料の蒐集をさらに進めていく。また蒐集したデータを集積して分析を進めながら、得られた成果を論文等の形で公開する。

平成27年度は未活字史料の蒐集作業を完了し、得られたデータを集積して総合的な分析を進め、得られた成果を論文等の形で公開する。また、データベースを作成して公開する。

4. 研究成果

(1)平成25年度

当年度は、本年度は16~17世紀における貨幣の使用実態を明らかにするため、関連史料の網羅的な蒐集に取り組んだ。かつ一部地域を対象としてその分析を行い、研究成果として発表した。

分析した対象は16世紀末期の陸奥国会津を中心とした、豊田秀吉による奥羽仕置前後における貨幣流通事情の具体像の分析を行った。それによると、奥羽仕置後の会津では「永楽銭」を基準とした知行体系が採用されていたが、その背景には検地を早急に完了させたい政権の意向が強く働いており、必ずしも当地における貨幣流通事情に配慮したものではなかったことが明らかとなった。また、ここで採用された「永楽銭」も永楽通宝そのものではなく、知行の基準額として採用された“空位化”した基準であったことを指摘した。

このほか公家を中心とした日記類の分析を進め、『言経卿記』『義演准后日記』『時慶記』『多聞院日記』などの16世紀末期にかかる史料から貨幣流通・貨幣使用に関する記事の抽出作業を行った。以上の史料は京都・奈良を中心とした地域に偏っているため、東国に関する記事の蒐集を進めるべき、『大和田重清日記』『家忠日記』などの史料のほか、17世紀初頭の鉾山開発(主に銀)と貨幣流通との関係も精査するため、『梅津政景日記』の調査も進めている。

以上の史料は既に斯界において周知されているものであり、新たな史料の発掘も進めている。これについては、主に東京大学史料編纂所や国立公文書館において調査を行ったが、各地の図書館・文書館等への調査を進める準備も進めた。

(2)平成26年度

当年度は、前年度に引き続き16~17世紀日本における貨幣流通の実態を明らかにす

るための史料収集を行い、その分析を進めた。

具体的には、16世紀後半に発布された織田信長による撰銭令に関するものとして、四天王寺やキリシタン関係に関する史料の分析を進めており、近く論考として発表する予定である。また、16世紀末期から17世紀初頭における関東、とりわけ房総地域における貨幣政策や検地に関わる史料の蒐集と分析を進めることにより、徳川家康による関東支配開始時期の貨幣政策について検討をすすめている。それによって、17世紀の江戸幕府成立後における一連の貨幣政策へと繋がる政策の基調について、新たな知見を明らかにすることができるであろう。

また昨年度に引き続き、公家を中心とした日記などの記録類の調査を進めることにより、貨幣流通の具体的な事例を蒐集して分析を進める予定である。そのほか、検地史料を中心に各種自治体史の調査を行うことによって、貨幣流通に関わる史料を洗い出して分析を行った。

このほかに、これまでの研究代表者の研究蓄積を総括するため、中世後期日本における信用取引の盛衰と貨幣流通との関係について、「匿名性」という語句をキーワードとして分析を行った。その結果、16世紀においては従来信用取引が退行すると考えられてきたことは必ずしも正確ではなく、15世紀までとは異なる形で信用取引が広く行われていたことを明らかにした。従来は16世紀を信用取引の「断絶」と考えてきたために17世紀以降（近世）への展開については不明瞭なままとなっていたが、今後は16世紀の実態をより具体的に明らかにする必要性が明らかになったとともに、近世への連続性について検討する素地を提供することとなった。

(3)平成27年度

当年度は、16世紀後半から17世紀前半にかけての貨幣使用に関する記事の網羅的蒐集をさらに進め、その分析を深めた。具体的には、『時慶記』『舜旧記』などの京都の公家や寺社関係者の日記類、あるいは平成25年度にも対象とした『言経日記』『多聞院日記』の記事の分析をさらに深めることによって、貨幣使用の実態を具体的に明らかにすることができた。

その結果、1590年代の京都で銀が貨幣として使用される傾向が定着していったことが確認された。またその傾向は17世紀前半にかけて続いていることも明らかとなった。一方で、金も貨幣として使用される事例が銀に較べると少ないながらも存在していたが、徐々に金は贈答手段に限定して用いられる傾向が強くなっていったことが明らかとなった。これらの成果は一部をすでに論文等において公表しているが、未成刊のものもあるので、単著や論文などの媒体によって早急に公開する予定である。

一方、本研究によって蒐集した事例はデー

タベース化してインターネット上で公開することとしており、そのためのホームページ（無料）を開設して公開を行っている。

このほか、九州を中心に、日記類以外の16世紀から17世紀にかけての貨幣使用に関する文書史料、とりわけ織豊政権期の貨幣政策に関する史料を蒐集して分析を進めた。また、当該期の東アジア世界の動向と日本の貨幣流通秩序との関連性についての検討も進めた。以上の成果は、学会報告および論文、さらには単著を刊行することによって公表する。

以上の成果により、当該期の日本における貨幣流通の特質を明らかにするという所期の課題について、概ねその目的を達成することができたものと考えている。しかしまだ事例発掘の可能性は残されており、対象地域を拡げて今後も蒐集を続けていく予定である。

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計4件)

川戸 貴史、15～17世紀海域アジアの交流と日本の貨幣、歴史学研究、査読無、950号(予定)、2016、ページ数未定

川戸 貴史、中世後期日本の貨幣経済と信用取引、歴史学研究、査読無、928号、2015、30-38,48

川戸 貴史、奥羽仕置と会津領の知行基準、史学雑誌、査読有、123編4号、2014、1-34

川戸 貴史、『玉塵抄』にみる戦国期日本の貨幣観、千葉経済論叢、査読無、48号、2013、21-74

[学会発表](計3件)

KAWATO Takashi, Changes in the Japanese Currency System due to the Interactions in East Asia from the 15th to the 17th Century, The 3rd Congress of the Asian Association of World Historians, 2015年5月30日 at Nanyang Technological University (Singapore)

川戸 貴史、奥羽仕置と会津領の知行基準、国史学会、2013年9月28日於国学院大学(東京都)

川戸 貴史、代銭納制再考、シンポジウム「中世村落の総合的復原研究」、2013年7月13日於早稲田大学(東京都)

[図書](計2件)

川戸 貴史、勉誠出版、中近世日本の貨幣流通秩序、2016、304

海老澤 衷、高橋 敏子、川戸 貴史他、
勉誠出版、中世荘園の環境・構造と地域社会、2014、376（執筆箇所 32-54）

〔産業財産権〕

出願状況（計 0 件）

取得状況（計 0 件）

〔その他〕

ホームページ等

<http://tkawato.web.fc2.com/>

6．研究組織

(1)研究代表者

川戸 貴史（KAWATO, Takashi）
千葉経済大学・経済学部・准教授
研究者番号：2 0 4 5 6 2 8 9

(2)研究分担者

なし

(3)連携研究者

なし